KSKS 花の会ニュース

２０２２年４月号
no.192

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB http://www.hananokai.info/　★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

ミニバザーのお知らせ

日　時 ： 2022年5月21日（土）
10：00～14：00

場　所 ： 共働舎花の会 駐車場、ほか
※市営バス「南平台三丁目西」バス停下車すぐ

㊟コロナ感染予防対策を実施の上で開催する予定です。

㊟今後の状況によっては、中止する場合もあります。

予約（申込み） 必要！

◇予約・問合せは下記へ。
第２共働舎花の会　☎072－697－7033
※５月９日（月）１０：００より申込受付開始。

花の会総会のお知らせ

日 時：2022年6月25日(土)
10：00～11：50

場 所：高槻現代劇場大ホール

※コロナ感染予防対策を実施の上で開催する予定です。
今後の状況によっては、中止（書面開催）する場合もあります。

表現の意味

２月24日、ロシア連邦軍がウクライナへの侵攻を開始し、１か月が経とうとしている。プーチンの「愚行」に対し国際的な非難が集中している。その中で、日本政府も「侵略」と非難し、自国は民主国家であることが強調されている。これに違和感を持つのは個人的な感情であろうか。考えれば100年前の1920年代の日本はどうであったのか。今は、ロシアの一般市民が言論統制され、現政権を支持し、他国のニュースを一切信じない状況を、メディアは「信じられない」と表現する。しかし、かつての日本も同様であり、今なおメディアの反省も少なく、「侵略」に対する事後対応も十分に行っていない。それを知りつつ、ロシアの民衆はプーチンを抑えられないのかと、不思議そうな疑問符を発する。

話は変わるが、３月に高槻で関西学院大学の桜井智恵子さんの「特別支援教育が必要なのは誰か」というテーマでの講演会が開催された。その中で、桜井さんが国連の障害者権利条約に触れて「ちょっと上から目線かな」との感想を漏らされた。気になり、条文を読み直してみた。第一条に権利の「享有を促進し、保護し、及び確保する」というような表現が、しっくりこないのかと思った。

どの法律も、時として権利を「与えてあげる」的な表現に出会うことがある。誰が与える立場にあるのか、それまでは与えられていなかったのは何故なのか。法律は近頃、目まぐるしく変わる、変えられる時代となった。障害者のグループホームについても、法改正が考えられているという。今の総合支援法もそうであるが、書かれている目的と実際の中身が異なることがある。作った人の感覚と、実際の生活する人の感覚が、時代と共にどんどん離れている。そんな「疎外」にどのように立ち向かうのか。少なくとも「声を挙げる」必要があるのではないか。

（やまだのかかし）

きかせて！仕事のお話！

障がい者就業・生活支援センター
利用者　Ｋさん

高槻市内の某製薬会社で働いているＫさんにお話を伺いました。

森　川：今の会社に入職したのはいつですか？
Ｋさん：2010 年の８月 21 日。
森　川：12 年前ですね。すごく長いですね。
Ｋさん：就職先がなくて、当時は清掃ばっかりだったので諦めて清掃しかないんやと思って選びました。
森　川：清掃の仕事はしたことがありましたか？
Ｋさん：初めてです。自分で続くのだろうかと思って不安はありました。
森　川：それで決まったんですか？
Ｋさん：仕事がなかったし、清掃しかなかったので、しょうがなく選びました。
不安だったけど、早いこと仕事をしたかったということもあって。
家族に相談したら、「早く仕事見つけて」と言われたので。

森　川：支援者のサポートはありましたか？
Ｋさん：ありました。一度「ここに面談に行かないか？」と誘われて行って、それから実習をして決まりました。
森　川：清掃の仕事をして良かったと思うことを教えてください。
Ｋさん：良かったと思うこと…は特にないんですけど。きれいにする方がやっぱり自分の中ではあるので、「汚い」と言われるとやっぱりショックなので。

森　川：周りの人に「きれいになった」と言われることはありますか？
Ｋさん：最近だけど、部長さんに言われました。
森　川：どんな気持ちですか？
Ｋさん：やっぱり嬉しいです。
森　川：それがやりがいになっているんですか？
Ｋさん：はい。
森　川：清掃の仕事で、辛いなと思うことはありますか？
Ｋさん：やっぱり腰ですね。体はやっぱり資本です。

森　川：仕事は建物の中だけですか？
Ｋさん：外もやります。今やってはいないんですけど、落ち葉を拾ったりとか。
森　川：じゃあ、夏は暑いし、冬は寒いですね。会社の中で話をする人はいますか？
Ｋさん：リフトに乗っている人とかとしゃべったりしています。
トイレの件で、ここが汚いとかを教えてくれたり…。
森　川：最近、社屋が新しくなりましたが、働きやすいですか？
Ｋさん：トイレがきれいになりました。前のところ

は茶色い水が出てたんで・・・、飲める水ではなかったので。

（きれいなので）ちょっと楽になりました。でも、仕事が増えたことでちょっと大変ですかね。

森　川：この会社で働けて良かったと思うことは？

Ｋさん：やっぱり通勤面ですね。通勤がわりと近いというとなんですけど。

森　川：人間関係はどうですか？

Ｋさん：わりとそんな悪口言う人もいないし。声もかけてくれるし。

森　川：休みの日は何をしていますか？

Ｋさん：買い物行ったりとか、あとカフェ行ったりとかいろいろしています。

森　川：仕事と家のことを両立するために何か工夫していますか？

Ｋさん：やっぱり協力し合っているので、しんどい時はお互い手伝ってやったりしています。

森　川：ストレス解消法は？

Ｋさん：カラオケに行ったりとか、あとは買い物に行ったりとか。それぐらいかな。

森　川：長く働く秘訣を教えてください。

Ｋさん：やっぱり支援者も応援してくれているし、自分自身のためになると思うので。

森　川：今まで辞めたいと思ったことはありますか？

Ｋさん：何回もあります。やっぱり、上司の人にいろいろ言われると嫌やと思う時はありました。

森　川：でも退職しなかったんですね。

Ｋさん：辞めると行くとこ（次の場所）ないから。

森　川：困ったことがあったら、どうしてますか？

Ｋさん：困った時は相談をしています。旦那さんに愚痴聞いてもらったりしています。

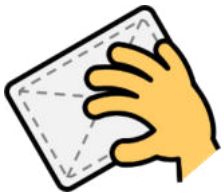
森　川：障がい者就業・生活支援センター（就ポツ）は役に立っていますか？

Ｋさん：うん。最近「辞めたい」と森川さんに言ったことありますよね。やっぱり相談しないと自分の中でストレス溜まるので。相談相手は必要だと思います。

森　川：これからの目標はありますか？

Ｋさん：体をあちこち痛めているので、病院行ったりして、やりながらしています。自分の中では今体をもうちょっと治すことを目標にしています。

森　川：これから働く方や、働いて困っている方にアドバイスはありますか？



Ｋさん：清掃は腰を痛めるので、やっぱり自分の体を大事にして自分の体力をちゃんとつけてしてもらったほうがいいと思います。

森　川：最後に将来の夢はなんですか？

Ｋさん：うーん…なんか田舎暮らしをしてみたい。

縁側でせんべい食べてるような感じが良い。大阪じゃなくて、どこかのんびりとできるところがいいかな。

Ｋさんの素敵なところは、仕事がしんどい時や大変な時に相談するだけではなく、自分の力でねばり強く乗り越えていけるところだと感じています。それが今に繋がっているのではないでしょうか。

同じ仕事を 12 年も続けることはとても凄いことです。これからも健康（腰）には気を付け、やりがいをもって働けることを応援しています。

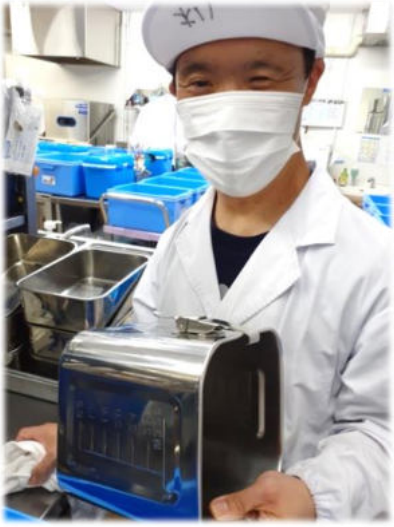
（取材：森川 晶平　撮影：古園 芳樹）

「お話、聞かせて」

八木 大輔さんご家族
第２共働舎花の会　Ｅ班

八木 大輔さんのプロフィール

- 1974 年生まれ　47 歳
- 1993 年、地元の小・中学校から高槻養護学校（現支援学校）を卒業後、福祉作業所「花の会」へ。
- 「ワークランド花の会」「花ぽっぽ」「共働舎花の会」を経て、現在は「第２共働舎花の会」に所属。Ｅ班（配食）でグループホームの夕食作りを頑張っています。（右写真）
- 花の会第１号グループホーム「フラワーホーム」には設立当初の 1997 年から入居しています。
- 2003 年よりグループホームに入居。



八木さんご家族のプロフィール

第２共働舎花の会Ｅ班（配食）に所属する八木大輔さんのご両親、1993 年から花の会に参加されています。当時は、無認可作業所時代であり、ご両親ともに作業協力や家族会活動にも熱心に参加されてきました。

メンバーファーストの花の会！

質問：大輔さんの子どもの頃の思い出は？

答（ご両親）：高槻で生まれ、小さい頃は芥川幼稚園に通っていましたが、父親の仕事の都合で、小学２年生の時に北海道に引っ越しました。北海道の小学校では、大輔の友達家族とキャンプに行ったり、学校でも雪中運動会があったり、北海道の大自然と友達などの環境に恵まれていた記憶があります。大輔と同じダウン症の友達がいて、本人にとても良い刺激になりました。その子の影響で自転車に乗れるようになったり。週に２回スイミング教室にも通って、自分で服をたたむようになったり、クロールが泳げるようになったり。妹や弟とも仲が良くて、３人ではしゃいで遊んでいましたね。花の会では、どちらかというと小さな声で話す印象があるかもしれませんが、子どもの頃は、大きな声でおしゃべりしていました。その後、広島へ引っ越すことになり、中学校時代は広島で過ごしました。そこでも割と自然が近くて、良い環境に恵まれて過ごしました。

質問：中学校卒業後に高槻に戻って来られたようですが。

答（ご両親）：子ども達の状況に合わせて、高槻に戻ることになりました。大輔は高槻養護学校高等部に通いました（現：高槻支援学校）。高槻から富田まで１駅ということもあって、電車で自力登校していました。本が好きで、よく字を練習していました。都道府県名を全部覚えたのもこの時です。今でも新聞をよく読んでいて、事件や事故があると、親子で「どこ（の都道府県）でこんなことがあった」とかを話したりしています。

質問：花の会に参加されたきっかけは？

答（ご両親）：養護学校を卒業して自宅にいるより、活動できる場があった方がよいと考え、当時は、今ほどたくさんの事業所はなかったのですが、何か所か作業所に見学に行きました。親なりに「ここであれば本人にとって良い環境だろう」と考えて、花の会を選びました。

質問：花の会での思い出は？

答（ご両親）：氷室のアパートで内職や農作業をしていたかな。この時も自力で通所していたと思います。当時は、親も畑に行って一緒に作業をしていました。農業に詳しい家族の方にいろいろとやり方を教えてもらってしていましたね。濱田さん(花の会創始者濱田信雄氏)が自分の運営している保育園の子ども達を連れてきて一緒にカレーパーティーをしたり、とにかく親も一緒になって活動していた思い出があります。無認可作業所だったので、職員の皆さん給料は低いが、志は高かった。「職員さんの生活は大丈夫か？」と心配でした。だから、認可を受けて運営が安定することを望んでいました。

質問：認可施設建設への活動はどうでしたか？

答（ご両親）：大変でしたが、メンバー、家族、職員も若かったので、駅前での街頭募金、エコバック販売など、頑張って活動できましたね。当時は、施設建設に向けて何度も職員と家族で話し合いをしていました。認可（社会福祉法人）になって運営が安定することで、職員が辞めずに安心して働いてもらえると、親としても安心できるという思いがありました。

質問：花の会でグループホームができた頃から利用されていますね。

答（ご両親）：まだ、大輔が 20 代でした。私達もグループホームがどんなものかもわかっていなかったけれど、声をかけてもらって、やってみることにしました。グループホームに行き始めた頃は、家族で晩御飯を食べている時に、「大輔は今頃、ホームでちゃんとごはん食べているかなぁ」と涙ながらに思ったり。本人は案外ケロッとしていて、同じホームのメンバーと毎日楽しそうに作業所に歩いて行っていました。週末家に帰っても、日曜日の夕方になると自分でホームに行く用意をしています。

質問：大輔さんのこれからについて、家族としての思いを聞かせてください。

答（ご両親）：20 歳ぐらいの時は、父にきつい言葉を言ったり、反抗期的なこともありましたが、家族のなかでは〝兄〟として、父が弟のことを怒ったりすると「ダメ」と庇ったり、優しい性格です。気持ちを溜めこむタイプなので、もう少し自分のことを話してくれたらなぁと。とにかく花の会に本人が楽しんで行ってほしいと思います。

質問：花の会に期待することは？

答（ご両親）：年々事業が増えていくことはいいことですが、中身の充実も必要ですね。それには、家族が職員さんとコミュニケーションを取り、自分の思いを伝えた方がいいと感じます。今はコロナ禍で難しい面もありますが、職員と家族でメンバーのことについて語り合い、メンバーのことを一番に考えてほしいですね。お互いに、損得を超えた部分での絆を築いていければ。何よりも〝メンバーファースト“の花の会であることを願います。

（取材：山口　由美子、牛嶌　亮）

職員の声・支援への思い

石橋　洋平さん
あじさいクラブ　指導員

石橋洋平さんのプロフィール

前職は、10 年以上高齢者介護の仕事をされていました。その後、「大学時代に専攻していた児童教育に携わりたい！」と、転職を決意。

2018 年、児童部門職員として花の会に入職。

趣味は旅行と野球観戦。

御朱印集めがきっかけでお寺巡りにはまり、京都・奈良あたりの寺社仏閣はほぼ行きつくしたそうです！お気に入りのスポットは、京都の圓光寺周辺。

Q あじさいクラブでの１日の仕事の流れを教えてください。

石橋：今は春休みが近いので朝から来てる子も結構いるんですが、通常だと 13 時くらいからお迎えが始まります。

来所したら、前半は宿題や学校の勉強をやって、その後おやつ作りですね。

おやつ作りはみんな好きなんで、包丁を握ってトントンやってもらったり、お鍋をかきまぜたり…ここでやったことを、家に帰ってお母さんに、「あじさいクラブでもやったから家でもやりたい！」とかって言ってるみたいですよ。

おやつ作りを通して、いろんな食べ物の知識とか、季節の知識、今はどんな食べ物が旬、とかも勉強してもらえたらと思っています。

で、おやつ作りが終わったら、日によって、外の公園に出かけたり、室内で季節ごとの工作をしたりもします。クリスマスとかハロウィンの時期は、仮装パーティーとかもするんですよ。

そんな感じで、結構あっという間に帰る時間になります。帰りの時間もみんなバラバラですが、だいたい 17 時～18 時くらいですね。小学校にあがる前の子とかだったら、朝から来てお昼頃に帰る子もいます。

Q お仕事をしていて、どんな時にやりがいを感じますか？

石橋：一番は、子どもの成長が見られる、ということですね。子どもの半年・１年って、特に小さい子だとガラッと変わります。

最初あじさいクラブに来た時には走り回っていて、「落ち着きないなー」と思っていた子が、１年もするときちんと座って、落ち着いて作業ができるようになってる…とか。そういう姿を近くで見ることができるのは本当に嬉しいです。それと同時に、僕達の方が教えられることもたくさんあります。

例えば、伝え方ひとつでも、「こういうふうに言わないと、子どもには伝わらないんだ」っていうことを、いろんな子ども達と接することで、少しずつ分かってきました。いかに自分の喋っている言葉が足りていなかったかっていうことに気付かされますね。

それって今思えば、高齢者の方が相手でも同じだったと思うんです。高齢者介護に関わっていた10年間、本当に利用者の方に伝わる言い方で話せていたのかな…っていうことに気付けたのも、この仕事をしてて良かったなって感じる所です。

Q 苦労したのはどんなことですか？

石橋：やっぱり転職したばかりの頃、子ども達との関わり方が分からなかった時ですね。そもそも子どもなんて、最初から心を開いてくれているもんじゃないんですよ。最初は、「誰この人…」みたいな。すごい遠くからずっと見られてる、みたいなこともありました。そこからの距離の縮め方に苦労したんですけど、最近はとりあえず一歩踏み込んでみようと思っています。やっぱりこっちが距離を作ると、相手も離れていってしまうので。なるべく笑顔で近づいていって関わっていく、っていうのは心掛けてますね。

でも一方で、あんまり近づきすぎると、子どもも「この人はすごくかまってくれる！」とか、「もっと甘えてやろう！」みたいになったりもするんですよね。距離感がすごく微妙で、それも難しい部分かもしれません。

子どもってほんまに周りや大人のことをよく見てます。それも踏まえて、最初の関わりがすごく大事かなと思います。

あとは、苦労ではないんですけど、児童部門は18歳までっていう利用期限があるんです。18歳待たずして卒業する子もいますし。それがちょっと寂しいところですね。「もう(放デイに行かなくても)大丈夫！」っていうので…それは嬉しいことでもあるんですけどね。

Q それでは最後に、支援で大切にしていることと、今後の目標を教えてください。

石橋：一番は子どもに寄り添うことだと思っています。

そのためには関わりが必要で、関わりを持つためには、子ども達とも親御さんともどれだけ信頼関係を築けるかだと考えています。

支援者としてもそうだし、あじさいクラブとしてもそういう施設でありたいですね。

事業所に求められることも、親御さんによって違うんです。子どもに成長してほしい、とか、子どもの息抜きの場にしてほしいという親御さんもいる。

どんなニーズに対しても応えていきたいからこそ、利用者さんと関わり、その人のことを知っていくことが一番かなと思ってます。

今後の目標としては、その大切にしたいことは変わらないんですが、そこにプラスして法律的なことや専門知識・事務的なことも身に付けたいと思っています。業務の幅を広げていきたいですね。

所感
取材を終えて

石橋さんは、「相手との関わり」をとても大切にされていました。それは、子ども達に対してもそうですが、親御さんに対しても、他の職員さんに対してもなんだろうな、とお話を伺う中で感じられました。

また、あじさいクラブにお邪魔すると、最初に管理者の中川さんが事業所を案内してくださいました。

目を引いたのは、大きな瓶に入った梅のシロップ漬けです。コロナ禍でおやつタイムの料理を自粛していた時は、この梅シロップでドリンクを作っていたそうです。

職員さん達のアイデアで、コロナ禍でも子ども達と楽しめる工夫がたくさんされていたのも印象的でした。

（取材：田淵　彩子）

日中活動支援・地域生活支援 合同企画

久保（くぼ）　多生子（たいこ）さんを偲んで

大好きな平田ワーカーと

共働舎花の会をご利用の久保　多生子さんが３月22日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

多生子さんと出会ったのは、私が花の会に就職した２年半前で、その後２年間、多生子さんの所属する班のワーカーとして一緒に過ごしました。その頃には車いすで過ごしており、食事も介助で食べておられたので、ベテランのワーカーから聞く「走り回って、いたずらをして笑っていた」という多生子さんの姿は知りません。私にとっての多生子さんは周りのみんなの『癒し』の存在で、その笑顔を見て声を聞くだけで、いつも幸せな気持ちになれました。

忘れられないエピソードがあります。ある日仕事で失敗した私は、つい多生子さんの前で「こんなことがあって落ち込んでるんだー」とこぼしてしまいました。すると多生子さんは、私の顔をじーーーっと見て、真剣に話を聞いてくれ、しまいには『にらめっこ』のようになってしまい、私は笑って気持ちを立て直すことができました。そんな私達を癒してくれた多生子さんでしたが、多生子さん自身はあの頃をどんな気持ちで過ごしていたのか、一緒にいた時間は幸せだったのだろうかと思い返すと、胸がつまります。

私は以前病院に勤務していました。終末期を病院で迎えた方の中には、なかなか家族と会えず点滴などでしんどい思いをされる方もおられました。今回のように最期までたくさんの仲間や職員に囲まれてホームで過ごし、穏やかに天国に召された多生子さんは、私達に多くの学びを与えてくださいました。

多生子さんが遺してくれたものを大切にして、これからも働きます。（共働舎花の会　八木　和栄）

素敵な笑顔をありがとう

久保さんの在りし日のお姿をお偲びし、心よりご冥福をお祈りいたします。

久保さんとの出会いは11か月前。「初めまして！世話人の津田です。宜しくお願いします！！」とご挨拶をさせていただき、支援がスタートしました。なかなか言葉かけが通じず、どうしたらいいのか模索していたところ、言葉でなくても素敵な笑顔の返事が返ってきていることに気付かされ、私からのボディータッチ・久保さんからのアイコンタクトで会話の成立ができていると感じるようになりました。また、喜怒哀楽の感情をうまく表現され、㊒は作業所からの帰着時、先に帰ってこられているメンバーさんから「久保さんおかえりなさい」「久保さん、お風呂に入りますか」「久保さん、一緒におやつを食べましょう」と、声がかかると大きな声を出して返事をされ、㊒は体調がすぐれない時に話しかけると全てスルーされ、㊒は何やら思い出した時にポロポロと涙を流して大泣きされ、「えっ何かあったの？」とこちらが驚かされ、㊒は枕元で大好きだった宇宙戦艦ヤマトの曲を流すと曲の聞こえる方へ首を動かされ、その場で素早い反応にはただただびっくり！！((´∀｀))そしてメンバーさんがお見舞いに来られた時には、熟睡中にもかかわらず大きな瞳を開けて見つめられ、大好きだったヘルパーさんの訪問時には、布団の中から手を出し握手・・心根の優しい気遣いの上手な、誰からも愛される久保さんでした。そして忘れられないあの日の朝、「久保さん、また明日来るよ。待っててね」の言葉が最後となりましたが、これからは「たくさんの思い出をありがとう！」に変更しますね！

（フラワーホーム　津田　孝子）

貴重な経験をありがとう

命を生きる、ということを実感するのはどういう時だろう。

生きているということは、今ここで何をするか・何ができるかの選択の連続のように思う。久保さんとの関わりを通して、私は「今ここで」を意識することが多くなった。

「でいじー」で再会した久保さんは、看取り期に入る前だった。ベッドや住環境も以前「ぽこ」で関わった時よりも久保さんに適したものになっていて、過ごしやすいものになっていた。食事もペースト状になっていたけれど、好きな味には目を輝かせて食べている様子は変わらず、嬉しく思えた。

久保さんの身体に負担をかけていないか、快適に過ごせているかと考えながら関わることができた。食欲はあるか、食事は飲み込めているのか、何を食べているのかわかるように、メニューの説明も食事の楽しみになるよう話しかけることも常だった。

久保さんから向けられた表情は、私に支援者としての醍醐味を味わわせてくれていた。自己満足かもしれないけれど、いい関係が築けていたと思う。

余命ではなく与命。人生の 1/48 という限られた命の中で、久保さんは何を思っていたのだろう。そして私の人生の 1/46 は、何を理解し支えることができただろう。これからも久保さんに関われたことは、貴重な経験となっていく。

久保さんは、与えられた命の時間の中で、私の「今ここで」という時間の感覚、命との向き合い様を教えてくれたように思う。

（フラワーホーム　西井　嘉奈子）

「看取り」に立ち会って

久保さん対応をしている世話人の姿をみながら「看取り」支援に際し、私達職員はどうあるべきなのだろうと考えていたことを思い出す。

ある世話人が私に「ご家族から、久保さんは～の曲が好きと聞いたので、今日はその曲を部屋で流しました。声を出しながらものすごく喜んでいたよ」と報告してくれた。日々、バイタル確認から始まり、栄養補給、体位交換など生命維持に関する仕事に追われる中で、上記のような報告はとても嬉しく感じた。

「看取り」では、主に①介護などの技術②各種サービスとの連携③生きる意味(ケア)とは何かなどの思想の３要素が柱となっている。私自身は特に③が①②の根幹であり重要であると、体験を通しながら感じた。最期まで「その人らしい」人生を全うできるように支援を工夫し、本人の持つ力を引き出しながら、最期まで生きることを支えることが特に「看取り」では求められるのではないだろうか。

家族の心のケアや共通理解の充実、職員一人ひとりの共通認識を促進するために、看取り指針の作成や研修の実施など、取り組まなければならないことは多々ある。そのような課題なども含めて、最期までメンバーと向き合う(「最期はここで」の気持ち)という心構えが何よりも重要であり、また職員一人ひとりの気持ちの支えとなる。

そしてこのようなことは一人でできるものではない。久保さんの「看取り」に際して、共働舎花の会のワーカーがメンバーを連れて見舞いに来てくれたり、看護師が日中対応しながらの様子確認、ご家族が見舞いできるように送迎を担当してくれたりなど、花の会内だけでもさまざまな人が久保さんに関わっている。外部では、訪問医療による 24 時間対応など、言葉では言い尽くせないほど助言などをいただいた。

久保さんを取り巻くさまざまな人が相互に助け合いながら協力し、久保さんの「最期まで生きることを支える」チームができていた。そこには「多職種連携によるチームアプローチ」という言葉だけではないものがあった。喜びや悲しみ、笑顔と涙など久保さんを取り巻くすべての人達が「感情」というものを互いに分かち合っている、そんな「生」に触れあう感覚があった。

久保さんの「看取り」で①ケアの思想を育み②相互に依存しあいながらアプローチする、この２点を普段の支援から意識し、また研修などで取り組んでいくことが必要と思う。そして「看取り」は、関わり合っているすべての人達が、最期にその人なりの人生の完成を家族・職員など関係者で讃えることができたとすれば、家族・職員にとっても、また共に過ごしたメンバーにとっても貴重な心の財産になっていくと私は感じている。

（フラワーホーム　座古　修）

児童通所支援の報告

一緒にお話、聞きませんか？　児童部門 学習会“学びの時間”へのお誘い

今、「〇〇療法」「〇〇プログラム」など、さまざまな支援理論が提案されていますが、能力促進を目的とした関わり方、支援方法が多いように思われます。もちろんエビデンスに基づいてのことだと承知していますが、子どもの立場から見た時、本当に大切なことは何なのでしょうか。そして支援＝特別な方法なのでしょうか。

「発達に遅れがある」「〇〇障害と診断された」として、児童通所支援事業所の利用を始める子ども達。一人ひとり違う困りごとを抱えていると考えられます。その困りごとに周りの大人はどのような「視点」で関係を紡いでいけばよいのか。水仙福祉会アイ・サポート研究所（大阪市）の心理職の方と、行動障害がある人の支援に現場で長年携わってきた方からお話を伺います。子ども達に支援者として関わっている方、ご家族をはじめ、多くの方々に聞いていただきたい内容です。

詳細については現在調整中ですが、ご案内いたしますので、お問い合わせください。

（さくらクラブ　平田　昌史）

「本人主体の支援を考える　～自分の気持ちを表出するのが難しい方への支援～」
行動障がいはつくられる！～こころのあり方に目を向ける～（仮）

講 師 ： 岩崎 隆彦氏　（水仙福祉会　アイ・サポート研究所）
　　田代 直美氏　（水仙福祉会　淡路こども園　園長）
日 時 ： 2022 年5月 25 日(水) 10：00～12：00
　　オンライン（ＺＯＯＭ配信）
定 員 ： 100 名
参加費 ： 無料

★お問い合わせ・お申込みは下記まで。
　さくらクラブ（TEL：072-674-6790、mail：sakura_club@silk.ocn.ne.jp）
　※ sakura と club の間にアンダーバーがあります。
★または、右記　QR コードより、お申込みください。
★お申込みいただいた方には、後日、詳細をご案内いたします。
　お申込みの締切は、2022 年5月 20 日（金）です。

アイ・サポート研究所 とは・・

子育て、知的障がいや自閉性障がいのある人の支援、高齢者への支援について、実践に基づいた研究を行なうため、2003 年 12 月に発足しました。

研究会・講座の開催、研究発表、翻訳、冊子の発行等を行ない、「本人主体の支援」について情報発信しています。実践研究については社会福祉法人水仙福祉会と協力し、職員の研修・研究活動をサポートしています。また、各種研究会や福祉施設と共同での勉強会・講座等も行なっています。

（水仙福祉会　アイ・サポート研究所 HP より抜粋）

就労相談支援の報告

『フォルツァ　卒業生の集い　@オンライン』を開催しました！

３月 18 日、卒業生の集いを昨年に続きオンラインで開催しました。

参加してくださった卒業生の方は２名。スタッフの人数の方が多いぞ！という状況ではありましたが…、今年は少し趣向を凝らして『さいころトーク』を取り入れ、ゲーム感覚で話を回していきました。さいころを振る度に「じゃじゃーん！」と効果音を入れてワイワイとみんなで盛り上がりました。

その他にもコロナ渦においてそれぞれの職場での対策状況や、生活に何か変化があったか？などいろいろなお話ができてよかったなと思っています。

お話の中で「オンラインの集いだから参加できる」というご意見がありました。

オンラインでは参加できないという方がいる一方で、オンラインだからこそ参加できるというご意見は、以前のようにみんなで集まれることが良いことだと思い込んでいた私には、新鮮な気付きでもありました。

これからは、参加の仕方もさまざまであっていい、人それぞれにフィットするやり方がある、コロナをきっかけに社会も大きく変わっていくのだろうなと思いました。

昨年は初のオンライン開催で、スタッフも ZOOM の入り方など何から何までーからのチャレンジでしたが、２回目の今年はスムーズに行きました。･･･とは言い難い点もありましたので、テクニカル面の課題は改善しご意見を取り入れながら、より良い集いにしていきたいと思っています。

（就労支援センターフォルツァ　福島　さくら）

新しい職員を紹介します。

写真中央＝堀本　圭佑さん

昨年の６月に相談支援センター スキップに入職いたしました堀本　圭佑と申します。

相談支援を通して、皆さんの素敵な未来設計のお手伝いができれば嬉しい限りです。

まだまだ新米の私ですが、よろしくお願いいたします。

趣味は登山やキャンプ、シュノーケリング。山や海、自然を愛してやまないです。おっさんの朝活、参加者募集です。（笑）

よろしくお願いします。

写真左＝山本　洋夢さん

昨年 11 月に入職しました、山本　洋夢と申します。障がい者就業・生活支援センター（就ポツ）に勤務しております。

就ポツでの仕事は初めてで、まだまだわからないことばかりですが、いろいろなことを学びながら日々成長していきたいです。

「共に学び、共に働き、共に生きる」を実践していきたいと思います。

写真右＝小池　絵里さん

昨年５月に入職しました、小池　絵里と申します。現在、障がい者就業・生活支援センター（就ポツ）に所属しております。

福祉職は初めてのため、戸惑うことも多々ありますが、職場の皆様に支えていただき、日々学ばせていただいています。皆様に信頼されるよう日々努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

法人の報告

理事会・評議員会の報告

３月１３日（日）に理事会・評議員会を開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため、一部の参加者はオンラインで参加していただきました。

2022 年度の事業計画や予算、2021 年度の補正予算、定款変更、管理者の変更など、主に新年度に向けての議題が中心でした。その他、役員報酬規程の変更、ひらかたくすの木の建替えに伴う資金計画の変更、個人情報取扱規程などの議題がありました。

管理者の変更については、次の３事業所で変更がありました。前任者同様、今後ともよろしくお願いいたします。

（業務執行理事　成瀬　修）

（管理者の変更）	前任		後任（2022 年度）
花の会短期入所事業部（レスパイト）	徳野　裕季	→	橋本　好司
高槻市障がい者就業・生活支援センター	陸野　肇	→	森川　晶平
サポートセンターはいびすかす	三原　道恵	→	澤田　賢治

法人が向かう先（事業計画補足）

～「エピソード記述」に取り組みます～

2022 年度を迎え、今後、法人運営をどのように進めるのか、各所で議論してきた。法人の向かう先（意思決定）について、誰が、どのように、判断し進めていくのか。その流れについて、ＩＣＴの活用も含めた体制構築、集団による指導への移行を図るため、なすべきことを話し合っています。

2021 年１月に「事業の展開を保障するのが人の確保であり、これは、現在の事業が共通して持つ課題です。まずそこをクリアしないと、次の働く場としての改善へと進めない。そして、働く場の余力が「支援」の改善を進める原動力となり、運営を担う世代が育ち、新たな事業を展開する・地域の中で力を発揮する・メンバーの地域生活を豊かにする、流れを創る必要がある。」と記載し、「うまくいかない状況となっている。この中で、「支援の改善」を進めようとしている」と記した。１年以上経過したが、著しく改善されたという報告は聞かれていない。普通の人達が集まり「支援」の現場に立つ時、「支援者」になることへの支援を行ってきたのか、問われ続けた課題を引きずっている。

支援―被支援の関係から「関係発達」の地平を目指すことを、徐々にではあるが伝え始めている。法人の事業運営会議（事業管理者の会議）において１年をかけ、支援改善に結びつく働き方の改善を論議した結果、2022 年度は「エピソード記述」の手法を広げ、支援者が「変わる」ことの実体験の形成を目指すことを検討している。これまでの個別面談（ミーティング）、事例検討を同時に進めながら取り組みを行いたい。これは「虐待認定」を受けた現場だけでなく、支援・相談・総体で取り組み、全体の底上げを目指すものです。

法人全体の取り組みとしては、本部課題の分担も行って、年度の目標と計画を策定し、実施しているが、昨年度より、コロナ禍の中でのＩＣＴ補助金を利用したＤＸの普及拡大により、内部意思疎通の迅速化を図り、業務の短縮を含めた改善を早急に進める基盤を形成し、2022 年度にその上への構築物を整備する段階へと進みたい。また、コンプライアンスや法人全体の運営改善を更に進める、課題の洗い出しと改善取り組みの計画化を進めます。

（文責　山田　義昭）

ご協力のお願い

添付しております付録（「グループホームの再編に反対する緊急院内集会」のチラシ）、ぜひご一読ください。ご興味ある方でご参加いただける個人・団体を募っています。

詳しくは、チラシに記載の『グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワーク事務局』までお問い合わせください。

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円

ＫＳＫＳ（花の会ニュースＮＯ．１９２）第三種郵便物承認　通巻第６８９９号　２０２２年４月２７日発行　（付録）

グループホームの再編に反対する

緊急院内集会

2022年 5月18日（水） 12時開始

衆議院第2議員会館　第6会議室

（ZOOM / You Tube配信併用）

私たち抜きで私たちのことを決めないで！

昨年、厚生労働省は当事者の声を聞かずに、通過型グループホームを創設する案を出しました。これに対して、「グループホームの再編に反対する緊急ネットワーク」が呼び掛けたグループホーム再編に反対する署名活動では、6万8千筆を超える署名が集まりました。グループホームは障害者にとって大切な生活の場である住まいです。訓練の場ではありません。近年では、20人定員の大きなグループホームを作ったり、マンションから障害者グループホームを追い出すなど、障害者の暮らしの場が脅かされる事態が続いています。当事者と支援者の声を国に訴えるために、みなさんの力が必要です。一緒に声をあげてください！

主催：グループホームの改編に反対する緊急行動ネットワーク事務局

連絡先：東大阪市長瀬町2-13-10 TEL:06-4309-7668

オンライン参加は
QRコードから

グループホーム再編に反対する緊急院内集会

ー　プログラム　ー

ZOOMで自由に参加できます

https://bit.ly/3urp9sQ

ミーティングID:825 2375 6311

パスコード:102221

1　開会のあいさつ(3分)

グループホーム再編に反対する緊急行動ネットワーク共同代表　林　淑美

2　当事者・現場の声(40分)

3　再編問題の背景と課題(10分)

4　賛同者・連帯アピール(個人・団体)（20～30分）

調整中

5　シュプレヒコール・閉会

※ご参加頂いた国会議員の先生方からは随時ご発言頂く予定です。

★緊急院内集会で当事者の声や賛同のアピールをしていただける方を募っています。

★参加方法は当日ZOOMで参加するか事前に事務局に5分以内の動画を送ってください。

★以下の3点についてEメールで事務局までお知らせください。

①参加者名（　個人　・　団体　）

②参加方法（　当日ZOOM　・　動画送付　）

③連絡先電話番号

★連絡先:グループホームの改編に反対する緊急行動ネットワーク事務局

★Eメール:kinkyukoudou@kusanone-k.com

★右のQRコードでchange.orgの「グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワーク」のサイトへ移動します。